

EQ カーブ対応トーンコントロールの調整(3)(HP 収載)
—Columbia カーブと EMI カーブ—

1. 始めに

前報(1)の方針を受けて、Columbia カーブと EMI カーブに対応するトーンコントロールの調整を検討します。

2. トーンコントロールの調整方法

配線は以下のように Leak Point 1 をラインアンプとして介在させ、トーンコントロール機能を活用します。

LINN LP-12→ZANDEN Model120→Leak Point 1(ライン入力)→TruPhase
今回は Columbia カーブと EMI カーブに対応するトーンコントロールの調整の方針は前報(1)の Table B に従い、手順としては、まず Leak Point 1 のトーンコントロールを中心にして ZANDEN Model 120 の本来のイコライザーカーブで聴いておき、ついで RIAA で再生して本来のイコライザーカーブの音に近づけるよう Leak Point 1 のトーンコントロールを調整します。レンジが広く倍音も豊かなピアノ曲で、イコライザーカーブの異なる同じ曲を選んでみました。
使用するアナログ盤は次のものです。

TRIO (ACharlin) PA-1116

ベートーヴェン ピアノソナタ 31 番
エリック・ハイドシエック(ピアノ)

CBS Sony 25AC 100

ベートーヴェン ピアノソナタ 31 番
ラザール・ベルマン (ピアノ)

3. トーンコントロールの調整結果

ハイドシエック盤は EMI、R、第 4 時定数 Low ですが、位相と第 4 時定数は固定し、EMI と RIAA を切り替えます。EMI で聴いておいて RIAA にしますと、音がぼやけ気味で高音のアタック感や低音の量感が不足します。そこで前報(1)の Table B を参考に Leak Point 1 のトーンコントロールの Bass と Treble を上げていき、Bass は 2 時に、Treble を 3 時にしますと、音像が立ってきて高音のアタック感や低音の量感がかなり戻ってきます。

ベルマン盤は、Columbia、R、第 4 時定数 High ですが、位相と第 4 時定数は固定し、Columbia と RIAA を切り替えます。Columbia で聴いておいて RIAA にします

と、音がぼやけて生々しい迫力が後退します。そこで前報(1)の **Table B** を参考に **Leak Point 1** のトーンコントロールの **Bass** と **Treble** を上げていき、**Bass** は3時に、**Treble** を3時にしますと、音がクリアーになり、打鍵の強打のアタック感が向上します。

4. まとめ

イコライザーカーブが **RIAA** でない盤を **RIAA** で再生した場合の違和感を **Leak Point 1** のトーンコントロールを調整することで、一定程度カバーすることができました。

以上